

丹南・中高野街道道標の新発見

西田 孝司 (松原市文化財保護審議会)



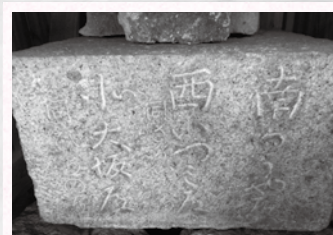
▲丹南の地藏盆
(丹南地藏講提供、平成28年8月23日)



▲地藏堂の三体
右：明和3年 左：明治3年
いずれも丹南3丁目



▲行者堂の役行者像



▲行者堂内の道標

丹南の地藏堂・行者堂を調査 かうや道・いつみ道・大坂道

平野(大阪市)から狭山を経て高野山(和歌山県)に向かう中高野街道は江戸時代以降、さかんに利用され、市域では三宅―阿保―上田―新堂―岡から丹南に至っていました。近鉄バスの丹南停留所は街道沿いにあり、そこには地藏堂と行者堂が建っています。この度、四軒の方々がお世話される地藏講のご協力を得て、堂内に祀られている役行者像と三体の地藏像を調べさせていただきました。

平成五年に改修された堂の前面の組物はずすと、堂内の四体のうち、左側の地藏堂中央の地藏立像は銘文を確認できませんが、両側の座像の台石に文字が刻まれていました。

右側の座像の台石正面には、「念佛講中」と刻み、左面には「明和三年七月十三日」とありました。江戸時代の明和三年(一七六六)の建立です。右面には「道行廿人」とあり、念佛講三名による寄進でした。両手には宝珠を台座上の中央に持っています。

左側の座像の台石中央には、「門入道円善士」「彌寛妙念善女」の「霊」とあります。左面に「明治三庚午年五月十八日」と記し、明治三年(一八七〇)に建てられました。右面は建立者である「菅生新田北平」□□「丹南四良右衛門」と見られ、菅

生新田(堺市美原区)と地元丹南の人々による供養の像です。明和像と同じく、宝珠を両手で持っています。

右端の堂は、役行者(奈良時代の修験道の祖、役小角)を祀りますので、行者堂と呼んでいます。行者像は、通例の高下駄をはく長頭巾姿で、錫杖と経巻を持つ座像です。台石には「大峯山」とあり、役行者が開いた大和(奈良県)の山上ヶ嶽(大峯山)に詣る山上講(大峯講)の人々によって建立されたものと思われます。

ここで、新たな発見がありました。役行者像の「大峯山」台石の下に隠れるように二つの石がのせられ、その下に花崗岩が役行者像などを支えていたのです。私はこれまでも、建物正面のすき間から、同石の存在は把握していましたが、今回、前面が見れると、はっきりと文字が読め、中高野街道の道標であることがわかったのです。

同石は、石像などの台石と思われる、道標に転用されています。正面に五行にわたって「南かうや道」「西いつみ道」「同さかいみち」「北大坂道」「同ひらのみち」と刻まれていました。

行者・地藏堂の場所は、中高野街道から丹南天満宮に至る丹南村の中筋の角にあたります。江戸時代の安永七年(一七七八)の「丹南村絵図」には「御制札」の場所とあります。丹南の居村は街道の西側で、東側は田

畑が広がり、「御制札」と街道をはさんだ田畑と水路沿いには「地藏堂」と記されています。「御制札」とは、来迎寺に隣接する丹南藩陣屋の触れ書を掲示した高札場です。地藏堂に祀られる明和三年像も、今の真向かいにあったようです。

道標は、江戸時代後半以降、高札場か地藏堂のいずれかにあつたと思われ、村絵図にも中高野街道上に「大坂より高野道」と書かれています。中高野街道と中筋を基点に南へ行けば高野山、西へ行けば和泉・堺方面、北へ行けば大坂・平野方面を指しています。東の方向を記さないのは、中筋から東方へ続く道がないからです。東西の竹内街道は、丹南の北の岡・立部を走っていました。

道標に重なるように「奉納 松川治郎左衛門」と刻む香華台も残り、丹南村庄屋の松川氏の寄進もありました。のち、地藏堂が西側の現在地に移ったのは、昭和前半のことでした。今年も同所で八月二十三日、にぎやかに地藏盆が行われました。



▲丹南村絵図 安永7年(丹南・松川家蔵)

○の中高野街道の右に「地藏堂」、左に「御制札」とある。上が北。